

## 生活支援コーディネーターの現状と課題 —生活支援コーディネーター養成プログラムの開発—

山崎 真梨子

キーワード:地域包括ケアシステム、市町村の方針、地域  
アセスメント

### 1. 研究の背景と目的

生活支援コーディネーターは、市町村が方針・要件・期待する役割を自由に定めることができることとなっている。先行事例の分析によると、生活支援コーディネーターの配置においては、社会福祉協議会が本来持つ地域福祉の活動を強化する社協委託、地域包括支援センター受託法人内に配置するタイプ包括併設型などがあることがわかった。

本研究では、生活支援コーディネーターが抱えている課題を整理し、解決のための知識・スキルを抽出・整理し、専門職に応じた養成カリキュラム編成に必要な要素を抽出する。

### 2. 研究方法

本研究では先行研究及び先行事例の分析を行うとともに、A県B市、C市D村E村の行政及び生活支援コーディネーターに対し質問紙郵送による調査を実施した。

### 3. 結論と今後の課題

調査結果より、生活支援コーディネーターに必要なスキルとして、「生活支援コーディネーターに期待される機能と役割の明確化」「多職種連携」「情報共有・伝達」「介護保険制度の知識」「地域アセスメントとマネジメント」「サービス開発力」があることが分かった。養成プログラムはこれらに、「市町村の方針」「高齢者理解」を含めることの必要性が示唆された。これらを実施する際には、資格取得時からの時間経過、経験及び市町村が生活支援コーディネーターに求める役割を勘案しながら、編成する必要があると考えられた。加えて、生活支援コーディネーターに必要な知識やスキルは一度の研修で完全に身につくものではないことから、定期的な研修や事例検討などのような活発な研修が必要であることが示唆された。

今回の調査においては、養成プログラムの実施及びその検証には至っておらず、養成プログラムの効果検証が今後の課題である。